



NPO法人 北摂子ども文化協会
Hokusetsu Children Culture Association

VOL.
46

ハックルベリー

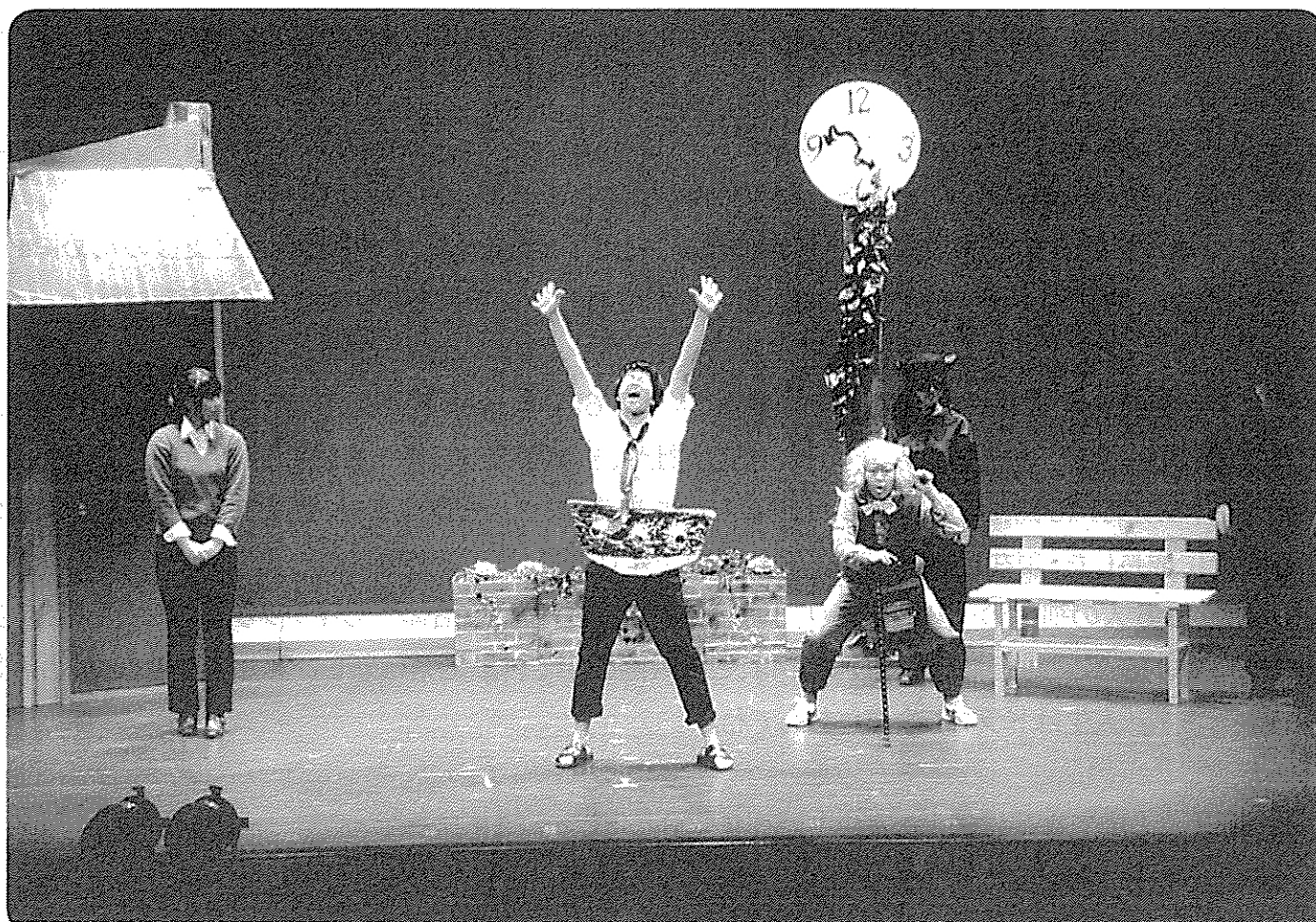
Hackle Baily

●北摂子ども文化協会事務局
〒563-0024 池田市鉢塚3丁目4番13号
TEL:072-761-9245 FAX:072-761-9244
hokusetsukodomo@wombat.zaq.ne.jp

●北摂子ども文化協会豊能事務所
〒563-0101 豊能郡豊能町吉川1336-1
TEL:072-738-3435

●北摂子ども文化協会西天満事務所
〒530-0047 北区西天満3-8-4朝日プラザ西天満101
TEL:06-6948-5380

Home Page URL: <http://hokusetsukodomo.com/> ※検索サイトからは、「北摂子ども」で検索!



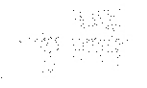
2015年1月31日 第14回大阪高校生演劇フェスティバルin池田

Contents

もくじ

たまには映画もいいもんだ	2・3
社会教育組合(仮)の創設	4・5
子育てエッセイ:やまGの育G日記	6
コラム☆おすすめの本/エッセイ	7
イベント・行事案内/入会案内/編集後記	8

たまには映画もいいもんだ



誘われて映画を見ました。その映画のタイトルは「神様はバリにいる」です。

ストーリーは、『婚活ビジネスに失敗し借金を背負った元起業家の祥子(尾野真千子)は、失意の中訪れたインドネシアのバリ島で、自称“爽やか”で謎めいた日本人大富豪のアニキ(堤真一)と出会う。見るからに胡散臭そうな風貌のアニキであったが、眼科医のリユウ(玉木宏)を始め、バリ島のお年寄りから子どもまで様々な人たちから慕われていた。とにかく人生をやり直したいと願う祥子は、藁をもつかむ思いで、アニキのもとで成功の秘訣をマスターするための人生哲学を学ぶことにする。ところが、アニキのあまりにも破天荒なその教えに、祥子は次第に自分が騙されているのではと疑心暗鬼になっていく……』

バリの大富豪、通称アニキの、人生成功哲学がちりばめられていて、その言葉、言葉には、何か懐かしい、父母や祖父母から聞いた事があるような、やさしさとユーモアがあふれていました。

常より、NPO法人北摂こども文化協会の理事長として、当法人が、こども若者自立支援のために必要な事業を、やり続ける力を持つための、強い企業経営の能力を持ちたいと考えています。

この映画の主人公の一人「大富豪アニキ」は、『1966年、大阪生まれ。3歳で母親と離別。中学校卒業後、看板屋に丁稚奉公する。その後、運送会社や、吉本興業(株)などを経て、20代後半から単身インドネシアのバリ島に渡る。輪投げからはじめた商売は、グループ32社、従業員5千数百名を越える会社に成長した。現在、自宅32軒。不動産約240万坪。アジアでも有数の資産家である。』

また、56人の孤児の「里親」であり、小学校への文具寄付や自治体へのインフラ寄付なども積極的に行っている。』このような経歴のアニキは、この映画の中で、「駄洒落は新しい発想を生む」と駄洒落を連発します。「人生はドラクエやー！」なんてね。

以下、映画の中で祥子に伝えたアニキ語録を紹介しましょう。

☆失敗したときこそ笑え

☆感謝の達人になれ

☆さわやかに

☆一番大切なのは人、仲間や

☆心配は応援という力に変わる

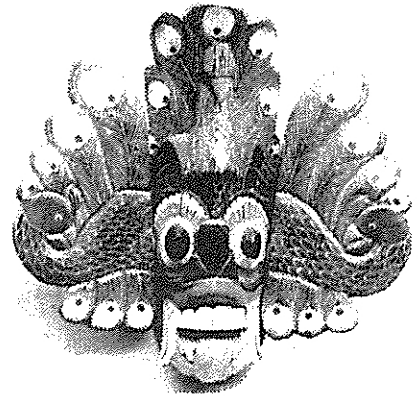
☆信用は金では買えん

☆世間の常識を徹底的に疑うんや

☆幸福を循環させるんや

☆一度できた縁は絶対に大事にするんや





☆やると決めたら腹がすわる

☆相手を自分のことのように大切にする

どの言葉にも説得力がありました。でも重たくないんですね。教訓めいていないんです。お説教でもないんです。アニキは実践者なんです。

当たり前困っている人がいたら話を聞いて、必要なら援助をする。親のない子が町にあふれていたから、孤児院を建て、里子として養育支援をするんです。豪華な家が32軒もある理由に、貧しいバリで雇用を生んでいるんですね。常に現状を把握し、その先にある必要を創造しています。そこに社会のための事業が生まれていました。

「動かなくっちゃ始まらない! 1日14時間働くんや」

「仕事で生き残れる人の条件は、義理と人情と職人技」

「人は鏡、相手の幸せをとことん願うんや、そしたらいつか自分にも帰ってくる」

合点! 合点! 合点!

そして、もうひとつ気に入ったのが、「自分の童心を取り戻せ」です。

私たち大人も、子どものころ、若いころ、自分の未来に夢がありましたよね。その夢叶えましょうよ。

ひとつずつアニキの語録を実践したらきっと実現するでしょう。

子ども若者自立支援にも、子ども若者たちが自分の未来に夢をもてるような、そのための人生ストーリーをどう描くのか、一緒に考えていきたいですね。

この映画、観てよかったです。なぜ映画の題名が「神様はバリにいる」なのか、それはバリの人たちの信仰心です。それも神社仏閣だけではなく、町中に祈りの場があるんです。些細な事に感謝の祈りをささげます。バリには町中のいたるところに神がいて、島民を見守っていると信じ、島民は、どんな些細な事でも神のご加護と信じて感謝するんです。不満、批判ではなく、感謝の心にあふれているって、何とも素敵です。

北摂こども文化協会も、設立からずっと、「出会い、気づき、つながり、行動、表現」を活動の原動力と位置付けてきました。これからも常識を裏側から覗く好奇心を持って、ご縁を大切に、つながる人々の幸せを追い求め、社会に必要な事業を続けていけるような運営力、経営力をつけていきましょう!

たまには映画もいいものでした。

(理事長・立石美佐子)

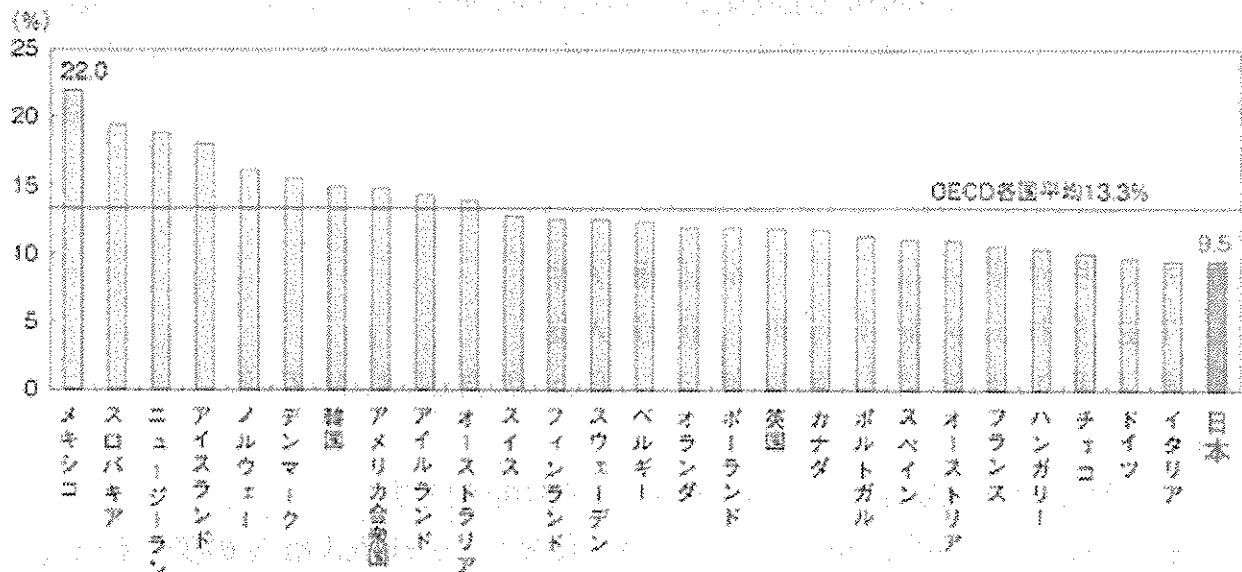
社会教育組合(仮)の創設 —社会教育費減額に歯止めをかけよう—

1. 減額される社会教育費

日本は教育にお金をかけない国である。その証拠に我が国の教育費はOECD諸国の中でかなり低い(図表1-1-31)。ことさら社会教育にかけるお金は少なく、社会教育費は年々減額され続けているという事実がある(表1)。

図表1-1-31

一般政府総支出に占める公財政教育支出の割合



(出典) OECD『Education at a Glance (2009)』より作成

出典『文部科学白書2009』24頁にある図表を以下のURLより転載。
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200901/1295628_005.pdf

表1：教育分野別に見た文教費総額

(単位百万円)

区分	文教費総額	学校教育費	社会教育費	教育行政費
平成18年度	22,463,347	18,123,006	1,861,003	2,479,338
19	22,731,689	18,278,455	1,803,135	2,650,099
20	22,510,224	18,166,301	1,711,010	2,632,913
21	22,458,813	18,704,840	1,729,079	3,024,894
22	22,817,719	18,275,331	1,650,871	2,901,517
23	23,447,025	18,328,361	1,574,309	3,544,356
5年間の推移	+983,678	+205,355	-286,694	+1,065,018

注) 文教費とは、学校教育、社会教育(体育、文化関係、文化財保護を含む)及び教育行政のために国及び地方公共団体が支出した総額(文部科学省所管の一般会計比歳出決算額を含む)の総計である。

出典『文部科学白書2013』438頁にある表を以下のURLより参照し編集して掲載。

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201401/1350715_022.pdf

2. 社会教育推進団体としての使命

北摂こども文化協会は、社会教育の推進を目的とする市民公益団体である。社会教育費が年々減額されている現実を前に、社会教育の担い手として社会教育の意義や必要性をきちんと社会にお伝えできてこなかったのではないかと反省する。議会や政府が社会教育の必要性を理解していれば、社会教育費だけが減額対象となり、5年間（平成18～23年）に280万円以上も費用を減らされるはずがない。

やるせない現実から以下の教訓を得る。社会教育推進団体として、単に社会教育事業を運営するだけでは不十分である。我々には実践を通じて市民と共に作り上げた社会教育の価値を、広く社会に発信する責務がある。これもまた社会教育推進団体の使命である。

3. 社会的承認を得る戦略を持つ

とはいえ、当協会にその意識がなかったのかといえば、そんなことはなく、例えば本紙ハックルベリーを発行し続けているし、過去には『実践報告書 ひと山まるごとプレイパーク』を発刊した。

他団体のお仲間も積極的に情報発信を行っている。たとえば「NPO法人山科醍醐こどものひろば」は『子どもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち』を出版したり、「NPO法人フリースペースたまりば」も書籍発刊は数多く、『AERA with Baby』の取材に応じインタビュー記事「ドキドキ・ハラハラ・プレーパーク・デビュー」が掲載されたりしている。

第一線で活躍するNPO団体はそれぞれに努力している。しかし社会教育費の確保という観点からいうと、国の社会教育政策に影響を与えるほどの効力は発揮していない。つまり、草の根的に個々の団体がそれぞれに情報発信する努力は大切であるが、それだけでは不十分であるということだ。

予算の先細りに歯止めをかけるには、個々の団体が連携・協力して社会教育の存在意義を社会に承認してもらうための戦略をもつ必要があるだろう。

4. 社会教育組合の創設

連携・協力の一つのあり方として、筆者は「社会教育組合」の創設を提案する。NPO社会の到来以降、社会教育の担い手は各地に誕生してきた。それらの多くが全国組織に属しておらず、学童保育を除けば職業集団としても組織されていない。結果、実践知を持ち寄り成果と課題を整理する機会に乏しく、また社会に影響力を与える形で社会に発信する術を持たない。以上を理由に、団体は違えど同じ職務に従事する人々がつながりあう場の創設が求められる。

（理事・立石麻衣子）

やまGの育G日記 その21 ～思い出のアルバム～

長女は小学1年生、長男は3歳自由人。我が子ながら、あっという間に成長した感がある。特に息子は2人目ということで、気が付けば歩いてたし、気が付けばしゃべっていたような感覚。以前の記事にも書いたが、娘と息子では写真の量が雲泥の差。娘のアルバムは既に何冊かあるのに、息子のアルバムは1冊目でまだまだ余裕あり。

アルバムで思い出したのが、僕が結婚を控え、実家で荷物の整理をしていた時のこと。

母がおもむろに部屋にやって来て、「これ、持っていきなさい」と饞別のように1冊のアルバムを渡してきた。それ以外は何も言わず、どこか哀愁漂う顔でリビングに去っていった。

「へー、こんなアルバムあったんや。」と片付けを中断し、アルバムを見ることにした。

1ページ目は、まさに僕が生まれたばかりの写真。なぜか白黒写真だが、僕の人生初の写真であろう。その写真の横には小さなメモ紙が貼られており、「4月20日誕生。3520g。宝塚市民病院にて」と書かれていた。

母は写真のひとつひとつにメモを貼り、どこで撮ったか、何をしているかなど、状況が分かるようにしており、意外にマメな一面を見た。

若かりし頃の両親に抱っこされている写真、幼児の姉や兄に遊んでもらっている写真、背景に映る懐かしい街並みなど、すっかりアルバムに見入ってしまった。

今の自分とさほど年の変わらない親の写真は、なんだか不思議な感じがした。

幼稚園の写真では旧友の姿に、「みんな、ちっちゃくてかわいいな～」「あいつ今どうしてるかな～」と懐かしくなった。色々と思い出しながら、おもむろに次のページをめくると、いきなり高校時代の写真に……。

「あれっ、ページめくりすぎた?」と思ったが、確かに幼稚園の次のページ。

無邪気な幼児が、いきなり世の中を斜に構えた高校生に……。

小学、中学もそれなりに一生懸命生きたはずだが、どこにも写真は見当たらない……。

母は、家を出る僕のためにアルバムを作ってやろうと思ったが、途中であまりにも写真が少ないことに気付いたのだろう。

このままではページを埋めきれないと悟り、高校時代のページ(わずか1ページ)が終ると、もはや何でもありの無法地帯に。

飼い犬の写真がズツバズバ登場し、家のベランダから撮ったであろう謎の夕焼け空、乗った覚えのない遊覧船の半券など、「んっ??」と思わずにはいられない写真のオンパレード。

ヘリコプターが7機、きれいに隊列を組んで飛んでいる写真があり、母は興奮を伝えたかったのだろうが、「ヘリコピターがいっぱい!!」と、残念極まる書き間違いにより、うまく伝わらず……。

飼い犬はまだしも、思い出のかけらもない写真や半券を見せられて、何を思えと?

新生児の白黒写真は本当に僕だったのか?とさえ疑ってしまった。

最後のページは、母の手書きで「おしまい」と書かれており、「紙芝居みたい……」と思わずつぶやいてしまった。最初のページで感じたノスタルジーはすっかり消えてしまい、ついさっきアルバムを手渡された時の、結婚を控えた親子が醸し出す、あの空気は何だったのだろうか?

それでも母なりに色々と考えてくれたのだろうと思い直し、ありがたく頂戴した。

よくよく考えると、今、自分も息子に対して似たようなものだ気づき、娘と同じように成長の記録を残してやらんといかんな～と感じたのであった。

おすすめの絵本

今年は未年。羊は吉祥の動物とされ、美、善、達など縁起の良い字には羊が隠れています。

「羊到清和(羊は天下太平をもたらす)」という言葉通りの平和な年でありますように願いながら、羊の絵本をご紹介します。

『はじめまして！カジパンちゃん』

きたやまようこ 作・絵 借成社

ビッポちゃんちの隣に新しい家が建ちました。引っ越してきたのはヒツジ。一家は3人家族で可愛いヒツジの女の子がいます。名前はカジパンちゃん。荷物を開くと、さあ何が出てくるでしょう。リズムカルな繰り返しの楽しい絵本。続きに『カジパンちゃんは何屋さん』がある。

『ヒツジの絵本』

むとうこうじ へん スズキコージ え 農文協

羊は一万年以上前から人間に衣食住の全てを提供してくれています。農耕民俗の日本では身近な動物ではありませんが、実は日本は羊を大量消費しているのです。命をいただいで日々生きていくとを感じる一冊。

『チリンのすず』

やなせたかし 作 フレーベル館

可愛い表紙とは裏腹、暗く悲しい復讐劇です。狼に家族を殺されたチリンが敵討ちのためにケダモノに変わる。復讐が終わっても羊に戻ることはできないのです。大人がまず読んでみてそれからお子さんに勧めるかどうか考えてください。

『こひつじまある』

山内ふじ江 文・絵 岩波書店

子羊のぬいぐるみ、まあるの冒険。ファンタジーに溢れ、暖かな陽光に包まれているような心地よい作品です。

『きばのあるひつじ』

さねとうあきら 作 井上洋介 絵 サンリード

狼から身を守るために、羊が牙をつけたなら。武器を持つとはどういうことか、深く怖い物語。

『まりーちゃんとひつじ』

作・絵 フランソワーズ 訳 与田準一 岩波書店

まりーちゃんとひつじ、まりーちゃんのはるの2話が入っています。文字数は多いですが繰り返しが多く詩的な文章も魅力的で読みやすいです。1956年出版のロングセラー。

いいものを見つけ

ハックルの原稿を書こうとして、最近変わったことしていないのに気がついた。

今までは実にいろんな所をうろろし、さまざまな人であっていたようです。思えば日本国内だけではなく海外までうろろしていました。

あちらこちらから原稿頼まれれば、あの話にしようか、この話にしようかと思ひだして、思わずニタニタしていたのに、今回、何を書こうかなと思って戸惑ってしまいました。これはなんとした事か。

いや、まてよ。そんな事はない、うろろはしている。私が変化したのかな。なんにでも興味をもって、ちょっとしたことでも針小棒大にして面白い野次馬精神をなくしてきたのだろうか。これはいかんなあとと思いつつ、カメラにある写真をポチポチみていたら、いいもんを見つけました。

ヨーロッパのどこか離れたけど人形劇場に行った時にあった椅子です。ちょっとくたびれた普通のオフィスビルの中に小さな人形劇場がありました。人形劇みにきたんやけど、ほんまにここでええのかなというような場所です。子どものくる所といえば、幼稚園のようにカラフルに飾りつけているのがほとんどですが、ここは黒が基調になっていました。赤青黄色でカラフルになんていうのは何にもなしで、黒一色なのに雰囲気は温かいのです。

なんやるときよろきよろして見つけたのが写真の椅子です。思わず笑ってしまいました。もちろん既製品ではありません。木の椅子の背もたれをのこぎりで切って作られていました。椅子が全部ちがうんです。このイスの背もたれを切っている人の楽しんでいる姿が目には浮かびます。

子どもの事考えて、子どもが喜ぶように色もカラフルになんて心はまったくありません。子どもをびっくりさせて、自分が喜ぼうという心が伝わってきます。

子どもを喜ばそうなんてとんでもない、「まず自分が楽しまな」歌を忘れたカナリヤになりかかっていたのかなと、ちょっと自分にびっくりしました。



(会員・尾崎望)

(人形劇団クラルテ・松本則子)

水月納会

2015

3月29日◎ 午後2時

in 水月児童文化センター

和太鼓やキッズ英語など
各クラブ活動の発表の他、
ビンゴ大会の開催

- 定期クラブの成果発表
(和太鼓、幼児親子教室、キッズイングリッシュなど)
- スーパービンゴ大会(当日先着90名 小学生以下対象)

会員随時募集中!!

「もっと自分らしく」を合言葉に、北摂子ども文化協会は活動しています。

年会費: ◆正会員(総会議決権あり)	10,000円
◆賛助会員 個人 一口	3,000円
団体 一口	5,000円
法人 一口	10,000円

お問い合わせ・お申し込みはこちらまで

●北摂子ども文化協会事務局

TEL:072-761-9245

FAX:072-761-9244

E-mail:hokusetsukodomo@wombat.zaq.ne.jp



第14回 ~音魂~

北摂太鼓集団のフェスティバル

と き=2015年3月21日(祝)
午後2時開演
(1時30分開場)

場 所=池田市民文化会館
アゼリアホール

前売り=一般(高校生以上)1,500円
こども(3歳以上中学生以下)
1,000円

当 日=一般2,000円、こども1,500円

出 演=太鼓集団童夢/わらべっこ/
太鼓塾一輝/太鼓組爽風/
篠笛の会篠音/締組

ゲスト=フラメンコスタジオ・ミゲロン
(MIGUELON)

編集後記

今年は暖冬と言われていたのに、例年より雪が多い気がします。
 初詣は毎年恒例で、妙見山というところに車で行っていますが、今年はえらい目に遭いました。
 山に登るにつれて、雪の勢いがどんどん激しくなり、山頂に着くころには吹雪状態。着いた途端、参拝は諦め、すぐに下山しました。
 ノーマルタイヤで山を下りる帰り道は、まさにサバイバル。脱輪する車をあちこちで見かけ、わが愛車もハンドル、ブレーキが効かず、ゆっくり坂を滑り降りることもしばしば。操縦不能となった車内はてんやわんやの大騒ぎ。助手席の父(72才)に「追突しそうになったら、急いで降りて、体で車止めてや」と無茶な要求も飛び出す始末。幸いなんとか無事に降り着いたものの、久々に肝を冷やした正月でした。(山)